



HOSHIZAKI

社会・環境報告書

Social and Environmental Report

2021



ホシザキ株式会社

●本報告書に関するお問い合わせは、下記担当部署までお願いいたします。

発行：ホシザキ株式会社
担当部署：総務部総務課環境係
所在地：〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16
TEL：0562-96-1130
FAX：0562-97-5104
URL：<https://www.hoshizaki.co.jp/>





ホシザキグループの経営理念

私たちは健全な企業経営をおこなう真のグローバル企業へ成長するため、以下の経営理念を掲げています。

存在意義

私たちホシザキグループは、多様化する「食」に対するニーズの変化に対応し、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」であることを目指します。これを満たすため、独自の技術に基づくオリジナル製品を創造し、より快適でより効率的な食環境へ向けての新たな提案と迅速かつ高品質なサービスを提供します。

遵法はもとより
社会と社員から
信頼される会社づくり

経営姿勢
良い製品は
良い環境から

透明性
のある経営
議論のできる
経営の実践

事業活動
と環境との調和
働きやすい
職場環境の実現

「夢を持とう」

すべてのことは
夢から始まる
夢は必ず叶うもの

「無駄を尊ぶ」

無駄と思える
ことでも、後になって
必ず役に立つもの

「儲かる会社には
儲かる文化あり」

人と同じことをしない
儲かって当たり前

ホシザキ・
イズム

「金で金を稼がない」

我々はメーカーである
本業で稼ぐ

「変化は進歩である」

今の延長線上は
破滅への道

社会に貢献できる 「進化する企業」を目指して。

CONTENTS

- ホシザキグループの経営理念 1
- 目次/編集方針 2
- トップメッセージ 3
- ホシザキグループの概要 5
- 特集「持続的な成長に向けた取り組み」 7
- ステークホルダー・エンゲージメント 9
- 社会報告
 - 投資家との関わり 10
 - お客様との関わり 11
 - 調達取引先様との関わり 12
 - 社員との関わり 13
 - 地域社会との関わり 15
 - 新型コロナウイルス感染症に対する対応 16
- 環境報告
 - 環境負荷低減への取り組み 17
 - 環境マネジメントシステム推進組織体制/マテリアルフロー/環境目標と実績 19
- ガバナンス報告
 - コーポレート・ガバナンス 21
 - コンプライアンス 22

編集方針

本報告書は、ホシザキ株式会社における社会・環境活動の年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの推進を図ることを目的に発行しています。

参考ガイドライン 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

対象範囲 ホシザキ株式会社と一部グループ会社の取り組みを対象としています。ただし、環境報告のデータは、ホシザキ単体のデータです。

対象期間 2020年1月1日～2020年12月31日

ホシザキグループのESG情報サイト

ホシザキは公式サイト内の「社会・環境活動」サイトを「ESG情報」サイトに名称を変え、コンテンツも刷新しました。ESGについての活動内容や成果を体系化して掲載しています。



<https://www.hoshizaki.co.jp/esg/>



変化し続けるフードサービス産業の中で、
これまで以上にお客様に寄り添い、
持続的で豊かな社会の実現のため、
社会課題の解決に貢献できる
「進化する企業」を目指します



ホシザキ株式会社 代表取締役社長

小林 靖浩

フードサービス産業の多様なニーズに トータルに応える

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」により、近年は持続可能な社会の実現に向けて国際的な動きが加速しています。日本政府も2050年までに二酸化炭素(CO₂)排出量などの温室効果ガスを実質ゼロにするとの政策目標を表明するなど、社会を構成する一員として、企業にも今まで以上の積極的な取り組みが期待されています。当社グループは、お客様のみならず社会に貢献できる「進化する企業」を経営理念に掲げ、気候変動問題への対応や安全・安心な豊かな食環境づくりなどの社会課題の解決を目指し、日々の生活に不可欠な「食」に関わるさまざまな分野で事業を推進しています。

「食」に対するニーズは時代の変化とともに多様化し、領域も広がり続けています。当社は、2016年7月に「ホシザキ電機株式会社」から「ホシザキ株式会社」に社名を変更し、厨房機器メーカーからあらゆる業界の「食」を支えるフードサービス機器メーカーへと転換を図りつつあります。当社を取り巻く環境の変化に応じて、フードサービス産業の多様なニーズに応える中で、的確に社会の課題を解決していくことが当社グループの存在意義と考えています。

課題解決のパートナーとして、 お客様に寄り添う

当社グループの特徴は、製販一体の総合力を活かしながら、お客様との対話を何よりも大切に、さまざまな販売チャネルを通して(日本国内では主に直販にて)製品・サービスを提供できるという点にあります。高い技術力で高品質・高性能な製品を開発・製造することと、刻々と変わるお客様のニーズを汲み取るきめ細やかなサービス・サポート体制を確立することで、フードサービス産業全体に対して価値提供をおこなうことを目指しています。

フードサービス機器には、食材の鮮度の維持や長期保存など、「食」の安心の確保が欠かせません。そこで、長期保存と適切な温度管理を可能とする冷却及び高精度温度管理技術、IoTを活用し多数の冷蔵庫をオンタイムで管理するシステムなどを提供し貢献しています。フードサービス産業で顕著な課題となっている人手不足に対しては、食器洗浄機、ディスペンサ、スチームコンベクションオープン(日本国内のみ)等、省力化機器のご提案や、調理方法(ニュークックチル等)、効率的なレイアウト(作業動線)等のご提案を通じて、効率化・快適化・省力化の実現を図ってきました。

一方、フードサービス産業を取り巻く法規制も時代に

応じて変化しています。例えば日本国内では、HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)に沿った衛生管理がすべての食品等事業者には義務づけられ、特に小規模な飲食店には対応に追われています。そこで当社グループは、日本全国で約600名のコンサルタントを配し、お客様の事業規模に応じたHACCP導入のサポートや機器導入の支援をおこなっています。

2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞は、フードサービス産業を直撃しています。主に日本国内での事例となりますが、当社グループのお客様でも、店舗でのメニュー提供ができなくなったため、テイクアウトや宅配サービスの新規導入を検討されるケースが多く見られました。「今まで店舗で楽しんでいた料理と同じ品質、同じ味を、ご家庭で楽しんでもらいたい」という新たなニーズも生まれています。そうしたお客様を支援すべく、新メニューの開発や容器包装の提案、宅配専門キッチンでの効率的な厨房機器の導入、さらには公的支援制度(補助金や助成金)のご紹介など、当社グループの持つノウハウを活用し、これまで以上にお客様に寄り添った活動を展開しています。

持続的成長を目指して

当社グループは「良い製品は良い環境から」の経営姿勢を掲げ、経営の透明性の確保や事業活動と環境との調和、働きやすい職場環境の構築などを通じて、多くのステークホルダーの皆さまから信頼される企業づくりにつとめてきました。

近年、環境・社会・ガバナンス(ESG)の取り組みの重要性が高まっており、グローバルな社会課題の解決に向けて企業に求められる役割は一層大きくなっています。こう

した動きの中で、当社グループを取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様の声に真摯に受け止め、誠実にその期待に応えていくためにも、ESG活動を重要事項と位置付け、取り組んでいます。

長期間にわたって稼働し続けるフードサービス機器にとって、省エネルギー・低環境負荷・長寿命は重要な課題です。当社グループは創業以来、省エネ技術の追求やノンフロン化など気候変動対策に貢献する製品の開発・普及につとめてきました。さらに、お客様がご使用になっている製品を保守メンテナンスし、パーツの定期的な交換で消費電力を抑えて長く使っていただくことも、大切なサービスと考えています。加えて、豊かな工場環境の整備や生産活動にともなう環境影響の極小化にも取り組み、事業全体を通じた環境負荷削減に取り組んでいます。また、お客様のご期待と信頼に応える品質保証やサービス・サポート体制の構築や、社員が個々の能力を最大限に発揮し、意欲とやりがいを持って活躍できるよう、働きやすく安全で、多様性を重視した職場環境づくりを推進しています。さらに、当社グループの持続的成長の基盤をより強固なものにすべく、実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の構築、およびコンプライアンス・内部統制の強化に継続的に取り組んでいます。

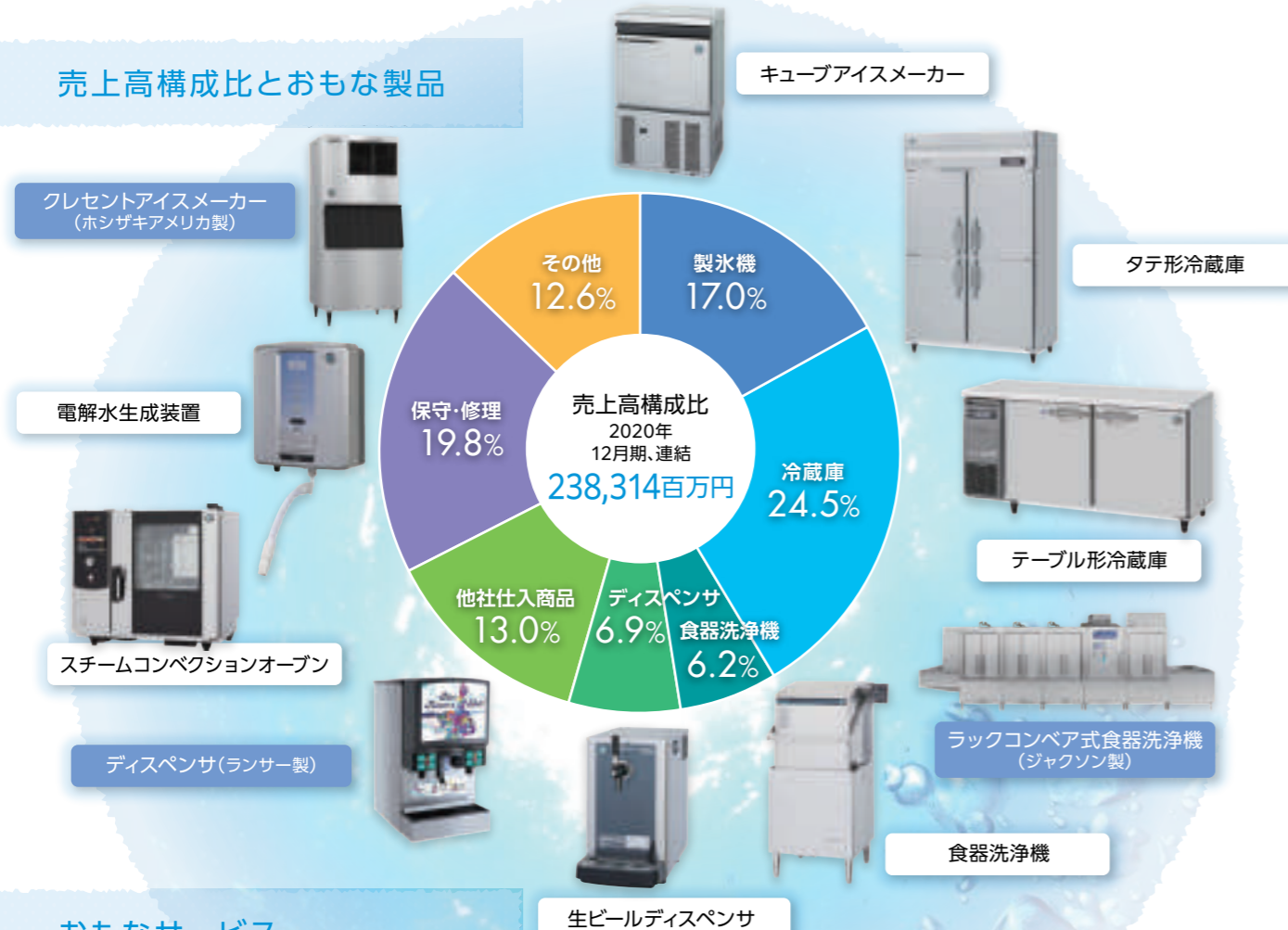
当社グループは、将来の世代への責任を果たし、より良い未来を築くため、全社員の力を結束し、事業を通して社会課題の解決に貢献するとともに、持続的成長を目指していきます。

ステークホルダーの皆さまには、引き続き温かいご理解・ご支援をお願い申し上げます。

時代のニーズに対応した 「モノづくり」と「サービス」を通じて、 安全・安心な食環境を支えています。

ホシザキグループは、「食」に対するニーズの変化に対応したフードサービス機器の開発・製造と、販売・メンテナンスなどのサービスを通じて、安全・安心な食環境を支えています。また、環境配慮型製品の開発・提供やお客様への省エネ・省力化に寄与するご提案などを通じて、社会課題の解決に貢献しています。

売上高構成比とおもな製品



おもなサービス

厨房設計など

食に関するさまざまな施設の厨房のニーズにお応えするため、プランニングから設計、施工・厨房機器設置までトータルでご提案します。衛生的かつ効率的な動線を確認することで、最適な環境を実現します。

サービス・サポート

お客様に製品を快適にご利用いただくため、製品の保守・点検などをおこないます。万が一のトラブル発生時には、「即日対応」をモットーに、サービススタッフが直ちにつけかけます。

コンサルティング メニュー提案・調理デモなど

ホシザキの製品を使用した調理実演やメニューの提案、衛生管理のアドバイスなどをおこない、お客様にさらなる付加価値を提供しています。

会社概要

商号	ホシザキ株式会社	代表者	代表取締役社長 小林靖浩
設立	1947年(昭和22年)2月5日	本店所在地	〒470-1194 愛知県豊明市栄町南館3番の16
資本金	8,021百万円 (2020年12月期)	社員数	12,555名 (2020年12月期、連結)
売上高	238,314百万円 (2020年12月期、連結)		

グローバルネットワーク

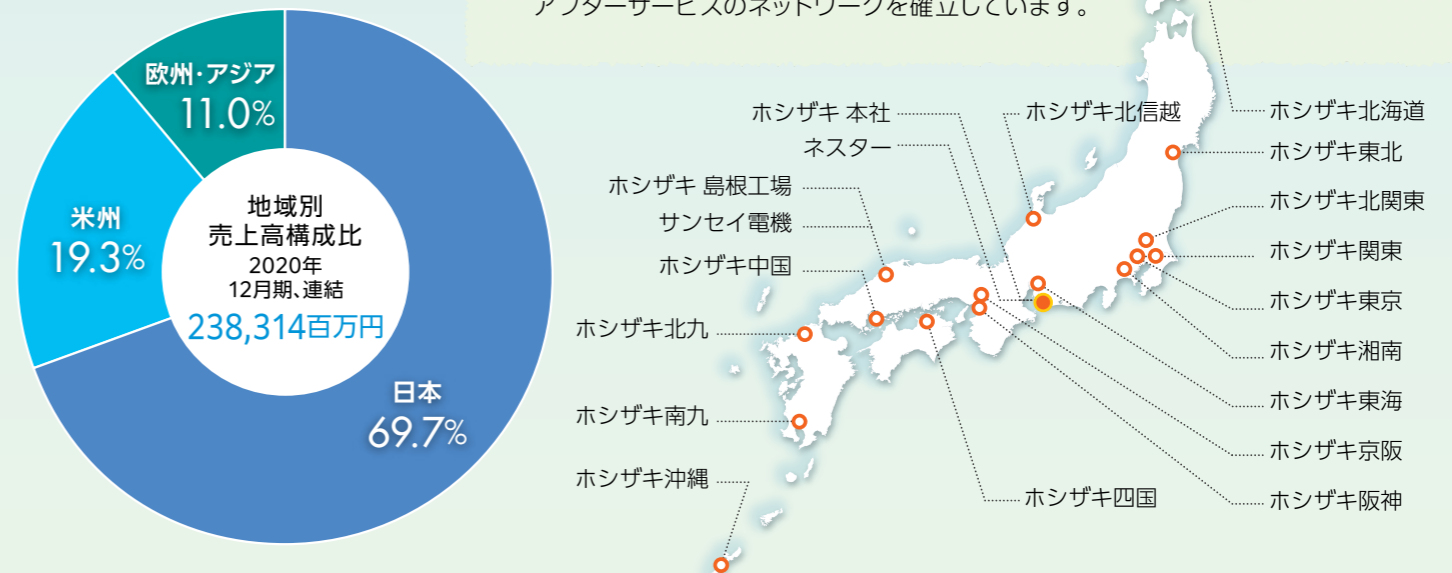
グローバルネットワークを通じて、米州・欧州・アジアを中心に、各国・各地域への製品供給を積極的に展開しています。
※ 欧州・アジアのグループ会社数には、Öztiryakiler Madeni Eşya San. ve Ticaret Anonim Şirketi(以下、Özti社)を含んでいますが、社員数については、Özti社は持分適用の非連結会社のため、除いています。

グループ会社数 **52社** 全社員数 **12,555名** (2020年12月末現在)



国内ネットワーク

15の国内販売会社体制のもと、全国435カ所(2020年12月末現在)の営業所展開による、きめ細やかな販売・アフターサービスのネットワークを確立しています。



持続的な成長に向けた取り組み

ホシザキグループは、日本および世界60カ国以上で製品を開発・製造・販売するメーカーとして、気候変動や食の安全衛生に対する意識の高まりといった社会のニーズに応じてきました。当社グループは今後も、社会の変化を成長の機会とすべく、ESGに対する取り組みを強化していきます。



省エネ性能を追求した製品の開発

9年連続でENERGY STAR®アワードを受賞（米州）

ホシザキアメリカは、2020年4月、米国環境保護庁(EPA)の主催するENERGY STAR®※1アワード2020において、9年連続で「Partner of the year - Product Brand Owner」を受賞しています。これは、2019年販売のノンフロン冷媒(プロパン)採用の業務用冷蔵庫“Steelheart”シリーズによる年間約2.5万トン(21.0%減※2)の温室効果ガス排出削減と、省エネを追求した製氷機“KMEdge X”シリーズによる年間170万USドル相当(8.5%減※2)の消費電力削減が評価されたものです。

※1 米国エネルギー省および米環境保護庁(EPA)が1992年から推進する活動。機器のエネルギー効率を高め、CO₂の排出を抑えることを目的とし、一定のエネルギー消費効率を満たす製品にエナジースターの認証が与えられ、製品にマークを貼付することが認められている。
 ※2 自社推計値(当社従来製品比較)



ノンフロン業務用冷蔵庫
“Steelheart”シリーズ(プロパン冷媒)



省エネを追求した製氷機
“KMEdge X”シリーズ

HACCP対応の支援

ソフトとハードでお客様をワンストップ・サポート（日本）

当社および国内販売会社では、お客様の生産性向上やフードロスの低減など、社会課題解決の貢献につながることから、HACCPの導入に向けた支援を積極的におこなっています。ソフト面では、約600名のHACCP関連有資格者を育成し、お客様の衛生診断、HACCP認証取得支援サポート、HACCPに基づく厨房設計の支援などをおこなっています。ハード面においても、電解水生成装置(次亜塩素酸水生成装置)、プラスチック&ショックフリーザー、真空包装機などの豊富な製品群を用意し、お客様をワンストップでサポートしています。



電解水生成装置



プラスチック&
ショックフリーザー



真空包装機

環境

気候変動
への対応

社会

食の
安全衛生

ノンフロン機器の拡充

プロパンやCO₂を冷媒に採用した製氷機を導入（欧州）

ホシザキヨーロッパは、2020年1月にノンフロン冷媒(プロパン)を採用したクレセントアイス製氷機を発売しました。クレセントアイスは欧州のファーストフード店などで広く採用されています。

当社は、環境配慮型製品の導入推進をおこなうことで、温室効果ガス削減に貢献します。

さらに同年5月、欧州の大型スーパーマーケット向けに、CO₂冷媒を採用したフレイクアイス製氷機の販売を開始しました。CO₂冷媒とは、プロパンと同じノンフロン冷媒であり、地球温暖化係数が低く、環境負荷が少ない冷媒です。

今後も、ノンフロン冷媒採用機種を積極的に拡充し、環境負荷低減に貢献します。



ノンフロン製氷機
(CO₂冷媒)

衛生管理を意識した製品などの提供

タッチレスディスペンサ（米州）

ホシザキアメリカでは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、社会の衛生意識が高まる中で、省エネ製品のみならず衛生面に配慮した製品づくりにもつとめています。

その一例として、赤外線センサーにより、氷や水を抽出できるタッチレスディスペンサをかねてより販売していますが、それに加え、2020年は、従来のタッチ式のディスペンサを、タッチレス式に変えるキットを発売しました。本製品や本キットは、衛生面に対する配慮が重要となるナースステーション、ロビー、休憩室、カフェテリアなどへの導入を推進し、感染症などのリスク低減につながる安全な環境整備に貢献しています。



従来のボタン式から
赤外線センサーに
変更できるキットを発売。
現場での交換も可能。

タッチレスディスペンサ

ステークホルダー・エンゲージメント

ホシザキグループのおもなステークホルダーは、当社グループの事業に直接的・間接的に影響を与える株主・投資家の皆様をはじめ、製品・サービスを提供しているお客様、調達取引先様、社員、地域社会の皆様など多岐にわたります。当社グループはさまざまな機会を設け、ステークホルダーの皆様のご意見を聞き、経営に活かしています。



投資家との関わり

当社は、持続的な成長および企業価値向上のためには、株主・投資家の皆様と積極的な対話をおこない、その意見や要望を適切に経営へ反映させることが重要と認識しています。

IR基本方針および情報開示の方法

当社は、株主や投資家の皆様に対して、投資判断に必要な情報を公平かつタイムリーにお知らせするためIR活動をおこなっています。

ホシザキグループが公表する情報は、TDnet[®]への登録およびホシザキグループのIRサイトでの掲載などの方法によって開示しています。情報の公平性につとめるとともに、適時開示規則に該当しない情報についても、

その趣旨に沿って適切な方法による開示をおこなっています。

また、外国人株主比率の増加を踏まえ、2019年12月期第2四半期より、英文による決算短信・決算説明会資料(要約版)・招集通知の開示、英語版ウェブサイトの開設を実施しています。

※ 適時開示情報伝達システム(Timrely Disclosure network)

株主・投資家とのコミュニケーション

当社は、当社業績(実績・予想)および経営戦略について機関投資家の皆様へ代表取締役社長から直接説明する場として、決算説明会を半期ごとに実施しています。加えて経営陣およびIR担当よりテレフォンカンファレンス(四半期ごと)や個別ミーティングを実施し、証券会社主催の各種説明会にも出席しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年3月より、決算説明会や個別ミーティングなどは原則電話またはWebを活用しておこなっています。

主なIR活動実績	2018年	2019年	2020年
決算説明会	2回	2回	2回
テレフォンカンファレンス	1回	3回	4回
個別ミーティングをおこなった国内機関投資家	106名	80名	118名
個別ミーティングをおこなった海外機関投資家	112名	113名	99名
国内証券会社主催カンファレンス出席	2回	1回	2回
個人投資家向け説明会*	4回	3回	0回

※ 2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により個人投資家向け説明会は中止

株主還元の基本方針

ホシザキは業績に裏付けられた利益還元を積極的におこなう姿勢をより明確にするために、2019年12月期より株主還元基本方針を次の通り定めています。

- 配当金については、連結配当性向35%を目標とし、おおむね30%から40%程度の間で継続的かつ安定的な配当の維持につとめる。
- 成長投資とのバランスや当社株式の市場価格などを考慮した上で、機動的な自己株式取得についても検討する。

お客様との関わり

お客様のご期待と信頼に応える製品やサービスを提供するため、品質保証やサービス・サポート体制を構築し、お客様の声にも耳を傾け、日々改善の取り組みを推進しています。また、お客様の要望に応じたプランで、快適な環境をトータルに提案しています。

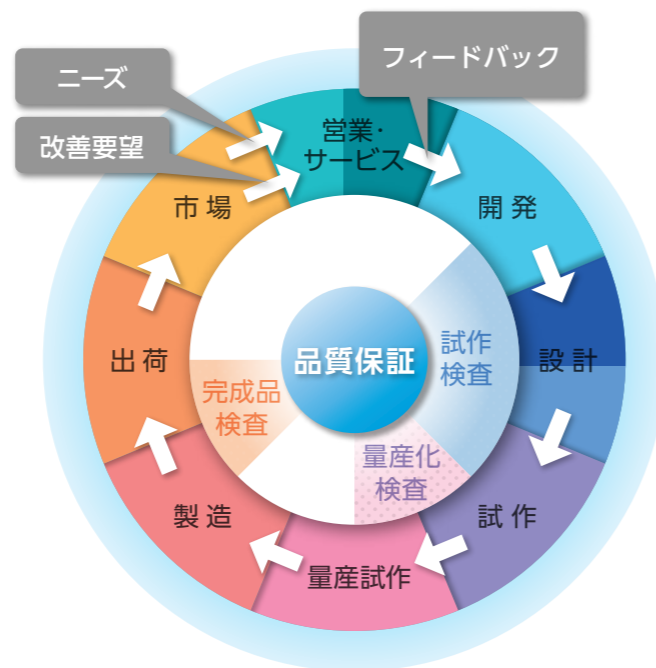
品質保証体制

ホシザキは、品質方針においてお客様に安心を提供する姿勢を明確にし、品質レベルの維持、改善に取り組んでいます。また、品質の国際規格ISO9001を全工場で取得しており、品質マネジメントシステムに基づき、製品開発段階から工場での製造、出荷に至るすべてのプロセスで厳格な品質チェックをおこなう仕組みを構築しています。製品の開発段階では過酷な状況下での実験を繰り返しおこない、これらの試験に合格した技術や部品のみを採用し、製品化しています。

また、製造ラインでは、厳しい品質基準を設定し、検査員が一台一台きめ細やかなチェックをおこない、完成品検査(最終検査)に合格した製品を市場に出荷する仕組みになっています。

さらに、市場からのクレームに対しては、その原因を徹底的に追及し、次の製品開発や製品改良に反映させています。

製品開発と品質保証の連携



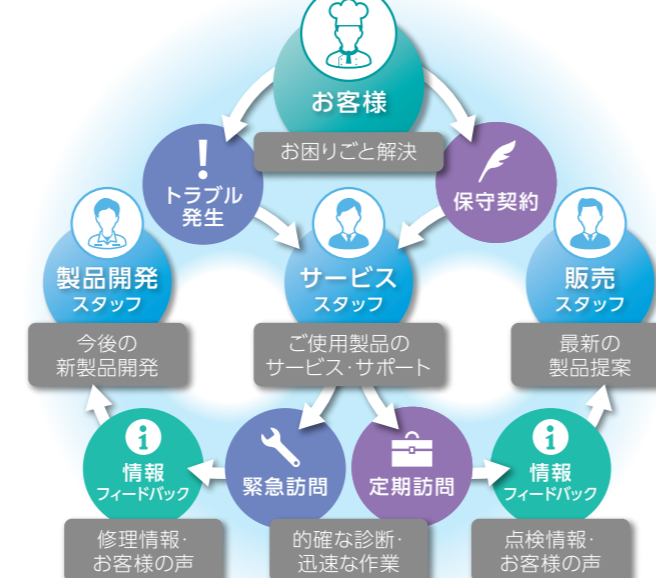
サービス・サポート体制

ホシザキグループでは、お客様へのサービス・サポートに力を入れています。サービスにあたるのは、全国各地に展開する15国内販売会社の約2,650名のサービススタッフです。この体制により、万が一のトラブル発生時、直ちにサービススタッフが訪問し、対応しています。また、多くのお客様にご加入いただいている保守契約先の定期訪問を通じて、機器の状態を撮影・リスト化し、使用方法などをアドバイスすることで、故障の未然防止や計画的な更新をサポートしています。

また、お客様訪問時に頂戴するお客様の声は、製品開発や販売スタッフへ適宜フィードバックしています。



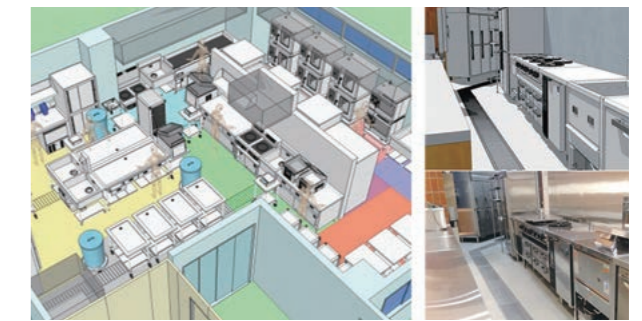
サービス・サポート体制



快適環境のトータル提案

ホシザキグループは、全国各地に展開する15国内販売会社に約150名の設計スタッフを擁し、年間17,000件を超える厨房のプランニングをおこなっています。当社製品と他社製品を組み合わせるトータルにプランニングし、お客様のニーズに一括でお応えできることが他に類を見ない強みです。例えば、お客様の業態にあわせたカスタマイズ製品や、オペレーションの改善につながるゾーニング、食材の温度記録をパソコンで一括管理できるシステムなどを組み合わせ、衛生的かつ作業環境等に配慮した付加価値の高い厨房プランを提供しています。そのような取り組みによって、外資系五つ星ホテル、1,000床超の病院、社員食堂、日本初上陸の外食チェーン店など、年間約5,300件の厨房一式施工の実績をあげています。

厨房プランの提案事例 (3Dイメージでわかりやすくご提案)



また、厨房のみでなく、食品加工工場の加工室、食品倉庫のクリーンルーム・冷蔵庫、青果市場の冷蔵庫など、コールドチェーンを支える大型施設の設計・施工も手掛けています。

調達取引先様との関わり

サプライチェーン全体で社会的責任を果たすため、取引先様とともに、責任ある調達に取り組んでいます。

責任ある調達

ホシザキグループでは、原材料や部品などの取引先様を、重要なパートナーであると考え、オープンで公正・公平な取引を通じた信頼関係の構築につとめるとともに、グローバル企業として社会からの信頼を獲得するため、取引先様を含めたサプライチェーンにおいて責任ある調達を推進しています。

取引先様との取引開始時には、ホシザキグループの調達基本方針を理解いただくとともに、取引先様の選定にあたっては、ISO規定に基づく「取引先チェックリスト」を活用し、品質、安定供給、経営の健全性などの評価に基づいて選定しています。

取引先様とのコミュニケーション

ホシザキグループでは、取引先様向けの説明会を定期的に開催し、調達基本方針の理解浸透につとめています。また、取引開始後においても「取引先チェックリスト」に基づいて定期的に再評価し、要求品質に満たない取引先様に対しては是正処置を依頼しています。なお、新型コロナウイルス感染拡大時には、取引先様に対して臨時的な経営状況調査を実施しました。また、安定的な調達をおこなっていくため、一次取引先様のみでなく、二次取引先様まで含めた調査を開始しています。

さらに、ホシザキアメリカでは、原則実地による取引先様監査を年2回実施しています。監査項目には、品質方針や工程管理に加え、行動規範、労働安全衛生、環境保全などの項目が含まれており、取引先様と連携したサステナビリティ調達の取り組みを進めています。



取引先説明会

社員との関わり

すべての人材が個々の能力を最大限発揮し、意欲とやりがいを持って働くことができるよう、働きやすい職場環境や人材育成制度の充実などの環境整備を図っています。

働きやすい職場を目指して

● ワーク・ライフ・バランスの推進

ホシザキでは、育児や介護のためのさまざまな制度を導入するとともに、取得しやすい環境を整備し、家庭と仕事の両立を積極的に支援しています。女性社員の育児休業からのスムーズな復職に向けて、休業前、復職前、復職後に今後のキャリアについて部門長と面談をおこなったり、育児休業中に自宅で利用できるオンライン

講座を導入しています。女性の育児休業取得率は100%となっており、男性社員の育児休業取得についても促進を図っています。今後も多様な人材が働きやすく、能力を最大限発揮できる職場環境づくりを目指し、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた取り組みを強化していきます。

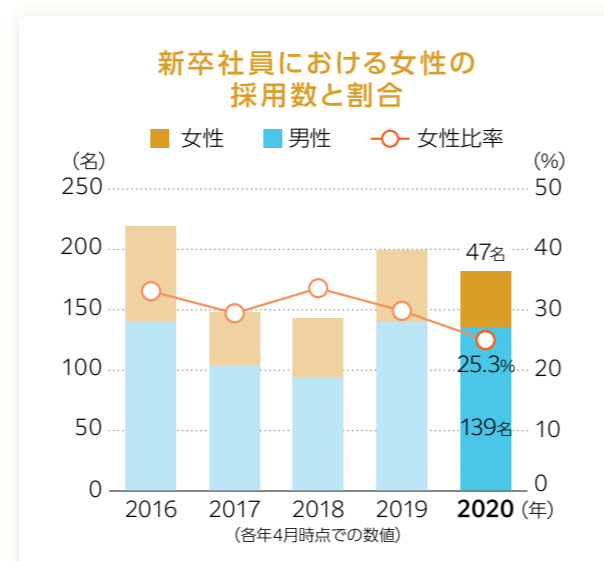
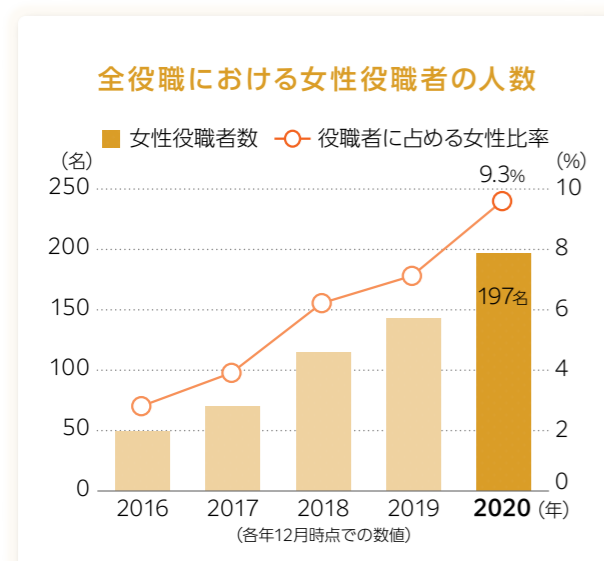
● 女性活躍推進「かがやきプロジェクト」の活動

ホシザキおよび国内販売会社では、「男性・女性に関わらず優秀な社員が働きやすく活躍できる会社を目指す」ことをビジョンに、「かがやきプロジェクト」を2010年度から推進しています。プロジェクトの事務局にはグループ各社のメンバーが参画し、2020年度に係長職以上の役職者における女性比率を10%以上にするという具体的な目標「レディース10」を掲げ、女性のキャリアアップ支援をおこなうとともに、働きやすい環境づくりに取り組み、2020年12月末時点での係長職以上の女性比率は9.3%となりました。また、プロジェクト発足以降、新卒採用における女性採用比率は、毎年約30%を目標としています。

今後も女性の活躍推進をはじめ、ダイバーシティの推進に取り組んでいきます。



かがやきプロジェクト交流会の様子



● 法律に基づく優良企業認定

ホシザキグループでは、「次世代認定マーク(愛称:くるみんマーク)」は18社中17社(うち、11社は次世代特例認定マーク(愛称:プラチナくるみんマーク)取得)、「女性活躍推進マーク(愛称:えるぼしマーク)」は18社中2社が優良企業として認定を受けています。また国内グループ全体の認定を目指して、今後も継続して働きやすく活躍できる環境づくりに取り組んでいきます。



● 働きやすい職場環境づくり

ホシザキは、社員の健康を守り、安心して働ける職場環境の実現を目指し、その取り組みの1つとして、労働時間の適正化に取り組んでいます。時間外労働については、一定の基準を超えた場合、注意喚起メールを上司宛に送るなど、適正な労働時間管理をおこなっています。2020年

の平均月間残業時間は1人当たり9時間となりました。また、有給休暇を取得しやすい環境を醸成するため、研修やイントラネットなどを用いて、有給休暇制度の浸透や理解・取得の促進につなげています。2020年の有給休暇取得率は70%となりました。

人材の育成

● 次世代経営者育成研修

ホシザキおよび国内販売会社では、将来経営に携わる人材の育成に積極的に取り組んでいます。幹部および幹部候補から優秀なメンバーを選抜し、論理的思考・問題解決力を徹底的に鍛えるべくビジネスケーススタディーや自社課題に取り組み、戦略構想力・戦略立案力を強化しています。



● グローバル人材の創出

ホシザキグループでは、今後より一層加速するグローバル化に対応すべく、海外で活躍できる人材の育成を強化しており、語学およびビジネススキル強化のプログラムをおこなっています。



● サービス研修

ホシザキ研修センターは、グループの強みであるサービス・サポート体制を支える社員の知識と技術向上の場として設立しました。

研修センターでは、製品の基本となる電気研修や冷凍研修を座学のみで学ぶのではなく、模擬的な冷凍回路などを使い、現場を想定した故障診断やお客様との

会話を想定したロールプレイング研修を多く取り入れています。また、実際の厨房環境を再現した研修ブースにて、技術力をより一層強化する研修をおこなっています。



● 公正な評価・処遇

ホシザキは、社員一人ひとりの長所短所を把握し、社員が成長しながら最大限の能力を発揮できるよう、公正な評価制度を運用しています。一般社員に対しては、「業務遂行」、「能力」、「情意」の3つを評価要素として、年2回の評価とフィードバックを実施しています。上位等級の社員に対しては、「業務遂行」面に特化した評価

を実施しています。国内販売会社では、従来、主に定量項目を社員の評価指標としていましたが、2020年度に評価指標や評価ウェイトの抜本的な見直しをおこない、定性項目を盛り込み、国内販売会社各社の評価手法を全社統一しています。

地域社会との関わり

ホシザキは、地域社会の一員として皆様に信頼される存在となるよう、社会貢献活動を推進しています。また、自然環境保護活動の一環として、公益財団法人ホシザキグリーン財団の活動を応援しています。



工場見学

ホシザキでは、地域の学校の工場見学を受け入れています。製品を作る工程や社員の働く姿から、「モノの大切さ」「働くことの大変さ」「ものづくりの面白さ」を感じていただくことで、学校教育への貢献ができればと考えています。

2020年は、検温や消毒液の設置など十分な新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで、9校の工場見学を受け入れました。



小学校の工場見学受け入れの様子

ホシザキチャリティクラブを通じた寄付活動

国内グループ会社社員の約75%が加入するホシザキチャリティクラブでは、会員の給与と賞与の100円未満を拠出し、社会福祉や自然環境保護、災害復興などの

支援団体に寄付しています。

2020年は、子ども食堂、激甚災害指定の豪雨に見舞われた自治体など、14団体に支援金を寄付しました。

障がい者の自立支援活動の支援

ホシザキは、地域の障がい者の自立支援活動をおこなうNPO法人や民間団体を支援しています。

本社工場では以前より、地元豊明市の障がい者就労継続支援事業所「むぎの花」の手作りパンの出張販売を毎週1回受け入れています。2020年には、同事業所にドウコンディショナー、タテ形冷蔵庫を寄付しました。



ドウコンディショナー

タテ形冷蔵庫

ホシザキグリーン財団の自然環境保護活動の応援

ホシザキグリーン財団は、ふるさとの自然を継承したいという創業者の想いから、1990年に設立されました。この理念を具体化する活動の一つが環境整備事業です。島根県雲南市木次町の財団施設「ふるさと尺の内公園」では、市民が自然に親しむ場所であると同時に、多くの野生動植物のすみかとなるよう、在来植物による植栽などの整備活動をおこなっています。

2020年には、ホシザキの社員も同施設の植栽作業に参加し、同財団の活動を応援しました。



ホシザキ社員による植栽作業

中国における新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する寄付

ホシザキは、2020年1月、新型コロナウイルス感染症拡大により不足していたマスクを、いち早く中国のグループ会社へ提供しました。同年2月には、拡大防止に取り組む中国政府を支援するため、当社グループ会社が

所在する蘇州市（蘇州市工業園区慈善總會）と上海市（上海市紅十字会）へ、合計130万元（約2,000万円）の寄付をおこないました。

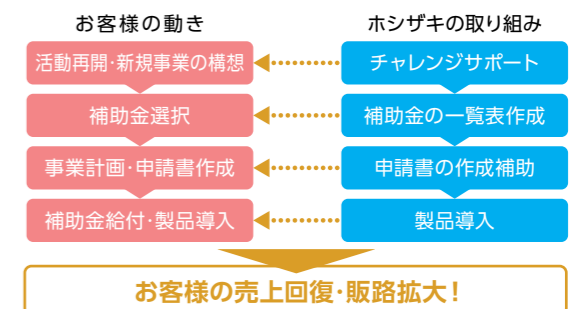
新型コロナウイルス感染症に対する対応

新型コロナウイルスの感染が世界中で拡大し、社会や経済へ大きな影響を及ぼしています。ホシザキグループは、社員、お客様、お取引先様の健康と安全を確保しつつ、これまで以上にお客様に寄り添った活動を展開しています。



テイクアウトやネット販売等、新たな取り組みを進めるお客様を支援

テイクアウト・デリバリー需要が拡大するなどコロナ禍により市場は大きく変化しています。当社及び国内販売会社は、テイクアウトやネット通販など新たな取り組みを始める飲食店のお客様支援に向けて、「ホシザキチャレンジサポート」を開始しました。例えば、テイクアウトメニューの提案やネット通販に関する食品・アレルギー表示などのアドバイスや、補助金制度の情報提供から申請書補助まで一括してサポートすることでお客様の販路拡大、売上の回復に協力しています。



ホームページにて「お客様サポート」サイトを公開

店舗の一時休業など製品の長期停止や運転再開手順、また万が一災害が起きたときの対処法などホシザキ製品を末永く快適にお使いいただくために、役に立つ情報を紹介するサポートサイトを公開しています。また、ホシザキオリジナルの新型コロナウイルス感染症対策店頭用ポスターを公開し、お役立ていただいています。



ホームページ
<https://www.hoshizaki.co.jp/p/support/>



新型コロナウイルス感染予防対策と稼働状況

当社グループでは、社員の安全・健康を最優先に考え、コロナ対策本部を当社内に設置し、感染予防につとめています。

国内拠点

2020年4月から2021年3月まで一時帰休やテレワークを実施、時差出勤の奨励、海外出張の原則禁止、国内出張の自粛、社員食堂における昼食休憩の分散など、さまざまな感染予防策を講じています。

海外拠点

一部の生産拠点では、一時的に生産調整を実施しましたが、2021年現在は通常稼働しています。また、テレワーク可能な業務については、環境を整えて順次実施しています。

環境負荷低減への取り組み

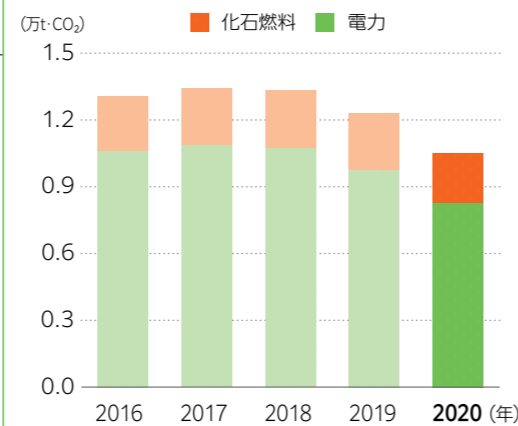
ホシザキグループは、温室効果ガスの排出抑制を自社の事業に直接的に関連する課題として認識しています。また、廃棄物排出量の低減や3R、製品のノンフロン化などに積極的に取り組んでいます。

地球温暖化の防止

● CO₂排出量削減に向けた取り組み

ホシザキでは、事業に伴い発生するエネルギー起源のCO₂を削減するため、製造部門・間接部門ともに、省エネ設備の導入、設備の運用改善、業務の効率化などに取り組んできました。あわせて、製品の設計段階での軽量化や部品点数削減の取り組みを通じて、輸送にかかるエネルギーの削減や生産工程の改善による使用電力削減にも積極的に取り組んできました。2020年度のCO₂排出量は上記取り組みに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による生産量の減少もあり、10,492t-CO₂(前年度比85.4%)となりました。引き続き、省エネ設備の導入や生産工程の改善などを推進し、CO₂排出量の削減につとめていきます。

電力・化石燃料のCO₂排出量の推移



製品における省エネルギーの徹底

ホシザキでは、環境負荷の低減にむけ製品における省エネ化など環境にやさしい製品の開発を目指し、日々製品の改良に取り組んでいます。

2020年3月に販売を開始したガスブースター内蔵ドアタイプ食器洗浄機は、業界初となる食器洗浄機用小形湯沸かしユニットを機

ガスブースター内蔵ドアタイプ食器洗浄機

械室内蔵することにより、省スペースでの設置を可能にしました。さらに燃焼効率の向上により、従来に比べお湯を沸かすためのガス消費量を減らすとともに、待機時間中のすすぎ湯温維持のための燃焼を廃止することで省エネルギーを実現しています。



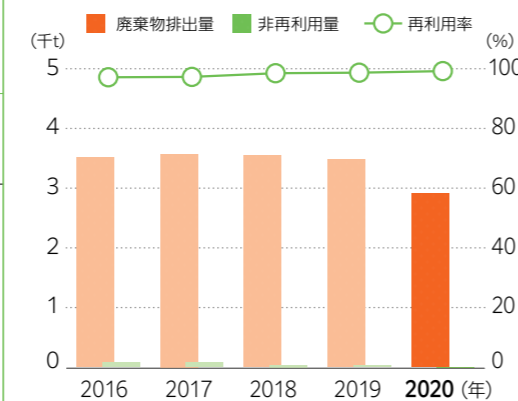
廃棄物の発生抑制

● 廃棄物発生抑制に向けた取り組み

ホシザキでは、金属作業屑の歩留まり向上(1枚の金属材料から多くの部品取りをする)や、プラスチック材料作業屑の歩留まり向上、製造工程での不良削減活動、在庫管理の徹底などに取り組み、3R(Reduce・Reuse・Recycle)を積極的に実施しています。

2020年度の廃棄物発生量は上記取り組みに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による生産量の減少もあり、2,891t(前年度比83.6%)となりました。また、本社工場・島根工場の再利用率については、廃棄物の分別、再利用の促進

廃棄物排出量の推移



によって99.0%以上を達成しました。引き続き、廃棄物の発生抑制を促進するとともに、再利用率の一層の向上につとめていきます。

フロン・化学物質管理

● ノンフロン化に向けた基本的な考え方

ホシザキでは、より環境に配慮した製品をお客様にお届けするために、製品に含まれる有害物質削減に取組み、欧州RoHS指令※をはじめとする法規制に適合した製品づくりを進めるとともに、冷媒・発泡剤

のノンフロン化に取り組んでいます。

※ 国際的な環境基準で、特定有害物質(鉛、六価クロム、カドミウム、水銀、ポリ臭化ジフェニルエーテルなど(他5物質))の使用を制限するための欧州連合(EU)の指令。

● 断熱材のノンフロン化

断熱材の発泡剤として使用されるフロンについては、製品の環境性能の向上を図るうえでの課題のひとつとらえ、技術革新を進めてきました。ホシザキでは、2007年に、発泡剤にシクロペンタンを採用しノンフロン化したテーブル形冷凍冷蔵庫・ビールショーケースの生産を開始しました。2012年には、この断熱材のノンフロン化手法をタテ形冷蔵庫にも展開し、温室効果ガスの排出削減を実現しています。さらに、2020年8月には、すべての発泡剤のノンフロンへの切り替えが完了しました。



テーブル形冷凍冷蔵庫

● 冷媒のノンフロン化

欧州では、2022年に代替フロン冷媒を使用する機器の販売が禁止される(Fガス規制)など、ノンフロンへの要請が強まっています。当社では、2009年より、業務用では世界初となる自然冷媒のプロパン(R290)を用いた製氷機の製造・販売を開始し、さらなる改善を重ね、製品ラインナップの拡充につとめています。

その一例として、ホシザキヨーロッパでは2019年にはノンフロンアイスディスペンサを、2020年にはクレセントアイス製氷機を開発・発売しました。



クレセントアイス製氷機

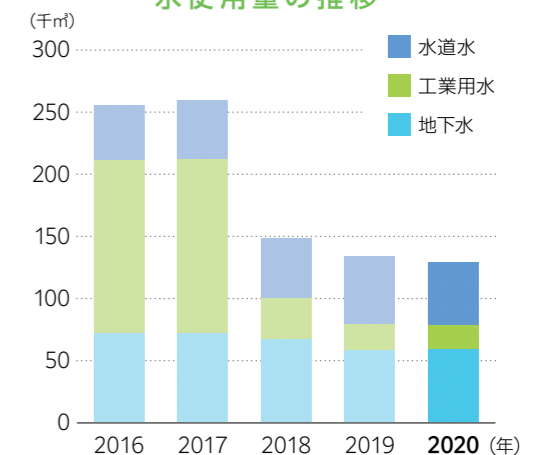
水資源保護の取り組み

● 生産工程における水使用量

ホシザキの生産工程では、間接冷却など限られた用途で水を使用しています。また、各工場は湯水等のリスクが低い地域に立地しており、各地の状況に応じて水道水・工業用水・地下水を適宜使用しています。

水資源を適切に使用していくため、水資源の使用量を把握し、削減に取り組んでいます。2020年度の水使用量は生産量の減少も影響し、129千m³(前年度比96.2%)で、そのうち水道使用量は50千m³、工業用水使用量は20千m³、地下水使用量は59千m³でした。

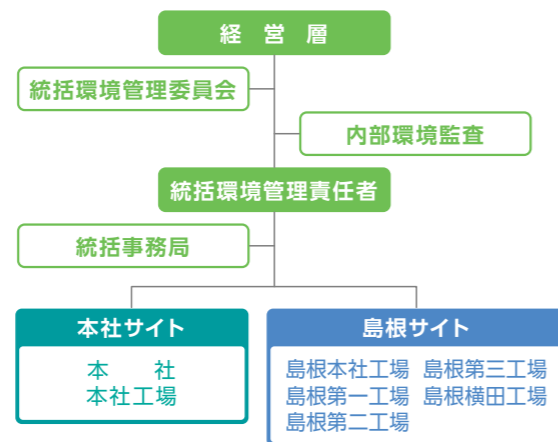
水使用量の推移



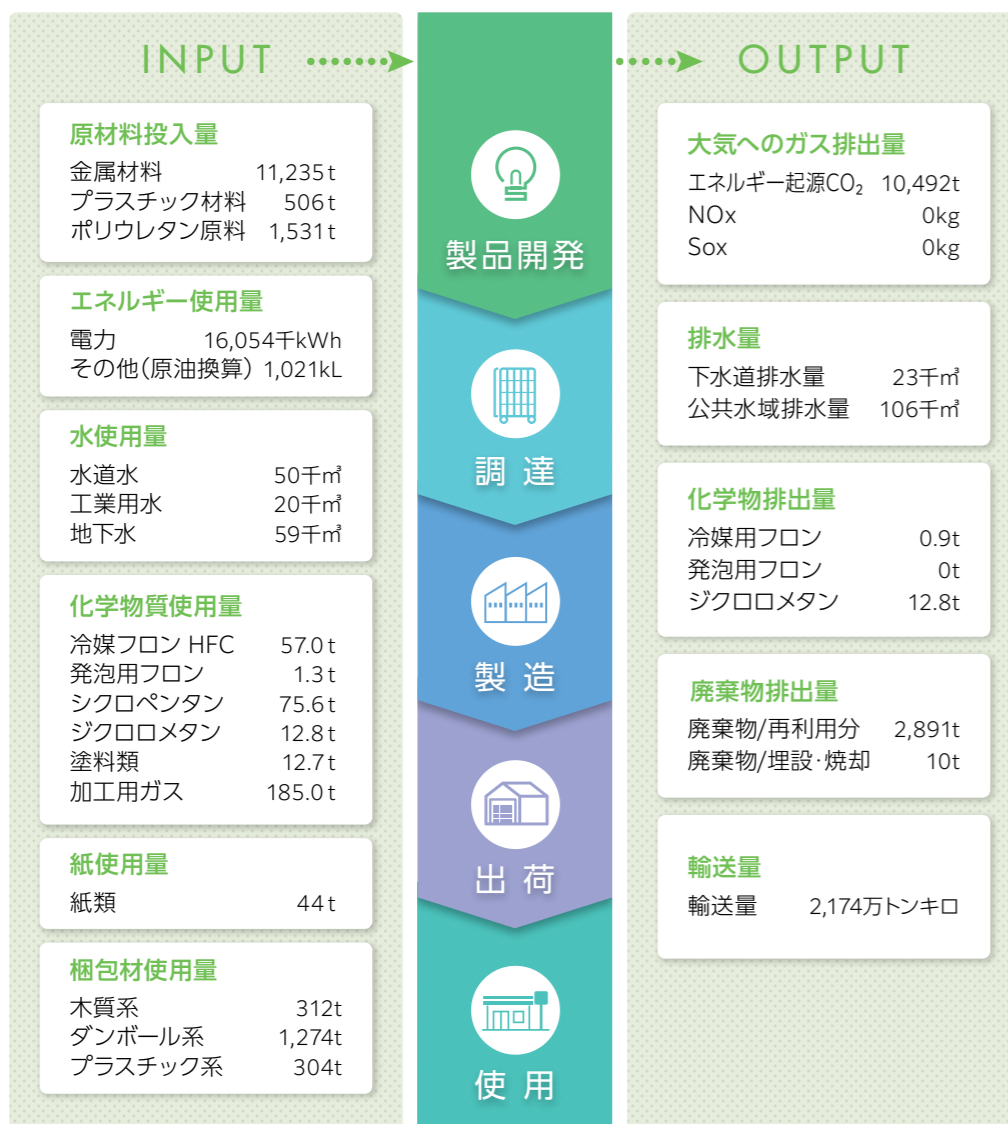
環境マネジメントシステム推進組織体制/マテリアルフロー/環境目標と実績

環境マネジメントシステム推進組織体制

当社では、全工場の全部門が環境改善活動に参画する体制を構築しています。当社全体の目標からサイト全体と部門の各階層における中期3カ年の改善目標を設定し、毎年具体的な手段を明確にした2ヵ月ごとの実施計画を策定して改善活動を推進しています。



マテリアルフロー



環境目標と実績

◎…達成 ▲…一部未達成 ×…未達成

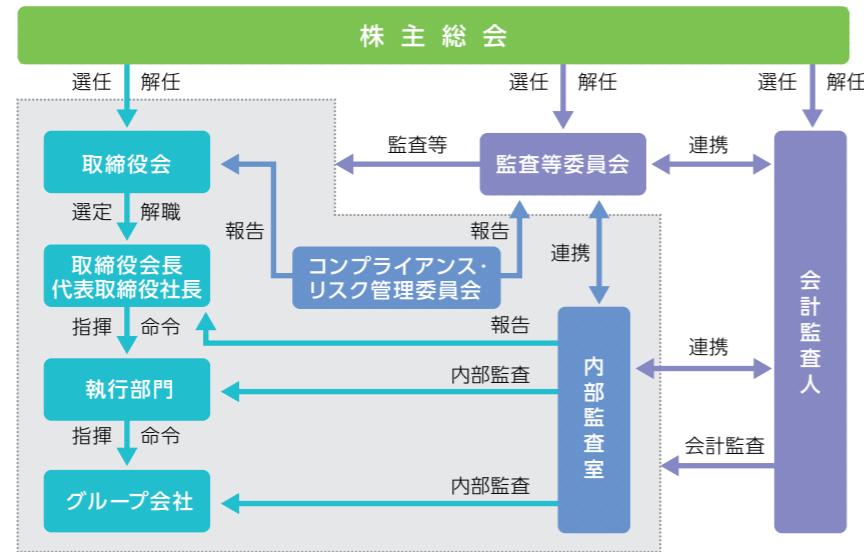
	2020年度目標	実績	コメント	2021年度目標
省エネルギー	エネルギー消費原単位 2013年度比7%低減	×	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、売上高・付加価値高が著しく減少したことで目標を達成することができませんでした。	エネルギー消費原単位 2013年度比2.8%低減
廃棄物の発生抑制	金属作業屑の歩留まり率 2008年度比3.7~7.5ポイント向上 2013年度比4.5ポイント向上 2016年度比0.034ポイント向上 (部門ごとに目標値を設定)	▲	製品群別では、歩留まり率の高い主力製品の落ち込み(売上高)が大きかったため、目標を達成することができませんでした。	金属作業屑の歩留まり率 部門ごと、工程ごとに目標値を設定
	プラスチック材料作業屑の歩留まり率 2008年度比6.0~18.0ポイント向上 (部門ごとに目標値を設定)	×		プラスチック材料作業屑の歩留まり率 部門ごとに目標値を設定
	廃製品の発生抑制 部門別、発生工程別、発生原因別に目標値を設定	▲		予知保全の導入、小改善の積み重ね等を進めてきましたが、一部の部門で材料変更による不具合発生などで目標を達成することができませんでした。
輸送時の負荷低減	才数(積載率)の向上 2019年度比0.1~0.3ポイント向上 (サイトごとに目標値を設定)	×	出荷量が減少したことに伴い、輸送にかかる車両1台あたりの積み込み量も減少し、目標を達成することができませんでした。	才数(積載率)の向上 サイトごとに目標値を設定
フロン	発泡用:一部製品で低GWP*の発泡剤へ切り替え実施 冷媒用:低GWP*冷媒化に向けての研究	◎	【発泡用】実施完了しました。 【冷媒用】実施完了しました。	低GWP*冷媒化に向けての研究
製品開発	ショーケース、ラピッドチラーのさらなる省エネ化	◎	ショーケースについては、冷却ユニットの最適化、本体断熱性能の向上をおこない、ラピッドチラーについては、インバータの圧縮機を採用することでさらなる省エネ化を達成することができました。	トップランナー対応製品のモデルチェンジなどを目標に設定
ゼロエミッション(リサイクル率99%以上)	ゼロエミッションの達成 (各サイトでリサイクル率99.0%以上)	◎	本社サイトと島根サイトともに、リサイクル率99.0%以上を達成することができました。	ゼロエミッションの達成 (各サイトでリサイクル率99.0%以上)
自然環境の保護	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動への協力と参加	◎	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動に協力しました。	ホシザキグリーン財団のおこなう保護活動への協力と参加

*地球温暖化係数(GWP)が低いこと。地球温暖化係数は、CO₂を基準に、温室効果ガスがどのくらい温暖化する能力があるかを表した数字。

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する考え方

ホシザキは、経営の透明性、効率性の向上を図るため、株主をはじめとするステークホルダーの立場にたつて企業収益、価値の最大化を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針およびその目的としています。



コーポレート・ガバナンス体制の概要

● 取締役会

取締役会は、当社の業務に精通した社内出身の取締役と、上場会社の経営経験や法務、会計の専門性を有する社外取締役で構成し、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性が確保されるようつとめています。現在、取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）8名（うち社外取締役2名）、監査等委員である取締役3名で構成し、監査等委員会は、常勤の監査等委員である取締役1名、監査等委員である社外取締役2名で構成され、取締役会の社外取締役比率は3分の1以上となっています。

取締役会は、毎月定期的に開催され経営に関する意思決定機関として、グループ全体の経営方針・経営戦略の立案と業務執行の監督をおこなっています。取締役会は、当社グループ事業に精通している取締役と経営全般における豊富な経験と高い識見を有する社外取締役

が、慎重な議論を経て事業経営に関する迅速かつ正確な経営判断をおこなっています。

● 監査等委員会

監査等委員会は、十分な社内知識を有する取締役と法務、会計の専門家としての豊富な経験・知識を有する社外取締役が活発な意見交換をおこない、公正に取締役（監査等委員である取締役を除く。）の職務執行を監視し、監査しています。

● 執行役員制度

当社は、執行役員制度を導入し、取締役の意思決定機能と執行役員の業務執行機能を明確にすることによって、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制に関する取り組み

ホシザキは東京証券取引所が2015年6月1日に定めた「コーポレートガバナンス・コード」の各原則についての対応をおこなっています。取り組み内容の一部は、

「コーポレート・ガバナンス報告書」に記載し、当社ウェブサイトにて公表しています。

コーポレート・ガバナンス報告書 ▶ <https://www.hoshizaki.co.jp/ir/management/pdf/governance.pdf>

コンプライアンス

コンプライアンス基本方針

ホシザキグループは、コンプライアンス基本方針を以下の通り定めています。

- 1 食環境に関わる企業グループが持つ社会的責任と公共的使命の重みを常に認識し健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からのゆるぎない信頼の確立を図っていきます。
- 2 正確な情報（商品情報・企業情報）の積極的かつ公正な開示に努め、広く社会とのコミュニケーションを図り、社会から評価が得られる透明性のある経営に徹していきます。
- 3 法令やルールを厳格に遵守し、社会規範に反することのない誠実かつ公正な企業活動を遂行していきます。
- 4 国際社会に通用する高い倫理観を備えた良き市民として使命感を持ち、内外の経済・社会の発展に貢献していきます。
- 5 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては断固とした姿勢で臨み、決して妥協はいたしません。

コンプライアンス・リスク管理委員会

ホシザキは、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置しています。当社法務部が委員会の事務局となつて、コンプライアンスの取組全般について企画立案を行い、委員会で決定した

事項の実行の実を上げるため、法務担当執行役員をコンプライアンス・リスク管理統括責任者に任命するとともに、各部門およびグループ各社にコンプライアンス・リスク管理責任者と副責任者を設置しています。

コンプライアンス研修

ホシザキグループでは、コンプライアンスの社内浸透を図るため、全社員に「ホシザキコンプライアンスハンドブック」を配付するとともに、毎年1回、コンプライアンス研修をおこなっています。

2020年には、ガバナンスやコンプライアンスのさらなる強化に向けて法務部を設置するとともに、法務部が販売会社やグループ会社のマネージャークラスにコンプライアンス研修をおこなう体制へと変更しました。研修を受講したマネージャーが部下に教える「カス



コンプライアンスハンドブック

研修の様子

ケードダウン方式]をとることで、マネージャーの学習促進と部下の理解促進の強化を同時に図っています。海外では、地域統括機能を強化するため、各拠点において海外管理責任者の配置をおこない、本社と地域統括会社が連携しながら各社でのコンプライアンス浸透を支援しています。

内部通報制度

ホシザキグループは内部通報制度を設けています。通報者は、通報や相談の内容にあわせて、社内窓口である法務部、または社外窓口として顧問弁護士とは別の弁護士を選ぶことができます。内部通報の内容については1件ずつ「内部通報検討会」において検討し、対策を実施するとともに、その結果をコンプライアンス・

リスク管理委員会や経営会議に報告しています。「内部通報検討会」は、取締役1名と執行役員3名からなる常任委員などから構成されており、より多角的な視点からの検討を可能とするため、女性アドバイザー・グループの参加も実施しています。

情報セキュリティ

当社グループでは、「情報管理規程」に情報の機密区分などを定め、情報システム部がセキュリティ管理をおこなっています。情報セキュリティ上の問題発生時には、情報システム部へとアラートが送られ、情報漏洩などを防ぐ体制を構築しています。また、サイバー攻撃に対しては、24時間365日対応の外部監視サービスを導

入や、2020年度には、クラウドシステムへの移行を進めるとともに、セキュリティ向上対策を実施しました。海外においては、IT部門を設置しているグループ会社では国内と同等レベルの情報セキュリティ管理をおこない、IT部門のないグループ会社では現地ベンダーとの連携によるセキュリティ向上を図っています。